



# ありんこ便り

2015年  
1月29日発行  
通巻第21号

由木かたくりの会の家族会「ありの会」会報



「ありの会」へのご意見・ご要望は、〒192-0355 八王子市堀之内 1236-8 社会福祉法人 由木かたくりの会気付「ありんこポスト」までに郵送するか、ポストに直接投函して下さい。Eメールで送る場合のアドレスは《 arinko\_renraku@yahoo.co.jp 》へ。ホームページは《 [http://space.geocities.jp/arinko\\_renraku](http://space.geocities.jp/arinko_renraku) 》です。

## 第4回フェスタかたかごが開催されました

2014年11月8日正午から、第4回フェスタかたかごが開催されました。このお祭りは、施設の活動内容を地域の方々に知って頂く機会にすることや、利用者や関係者が主体的に参加することでモチベーションを上げること、更に、利用者・家族・地域の相互理解を深めること、を目的として始まりました。

今年は、周辺地域でのチラシ配布や新聞折込などでPRしたこと、更に天候にも恵まれたため、予想以上に多くの方々に来て頂くことが出来ました。利用者の皆さんにとっても、家族・職員や地域の方々と楽しい一日を過ごすことが出来たと思います。



お祭りは、かたくり太鼓で始まり、かたくりの各部門や家族会等が準備したいろんな活動が展開されました。利用者の皆さんはパン・クッキー・野菜・ソフトドリンク・石鹸・その他の販売や、喫茶・レストラン(喫茶・軽食・カレー・パスタ・豚汁・デザート、など)や、アイロンビーズ体験コーナーなどで大変張り切っていました。





又、ありの会は、焼きそば・フランクフルト・アルコールドリンクの販売と釣りゲームを、又、後援会によるバザー・輪投げ、など、大変好評でした。

当日は、大学生のボランティアの方々や、家族会(ありの会)の多くの会員の皆様にもご協力を頂きましたので、無事成功することが出来ました。心よりお礼申し上げます。



## ◎ 会計報告

昨年度は協賛金と言う形で支援いただきましたが、今年度は法人の希望で連絡・案内・BGM用にアンプ購入と屋上へのスピーカーの設置を行いました。これへのありの会負担金が¥50,127で、ゲーム用のクッキー代金¥8,400とともに法人に支払いました。

ありの会が独自に運営した行事の収支は下記の通りです。

	焼きそば、 フランクフルト	釣りゲーム	ビール、 ノンアルコール	雑貨類	ガスボンベ代	合計
支出	¥39,299	¥9,154	¥31,156	¥4,213	¥2,600	¥86,422
収入	¥28,450	¥2,900	¥11,400			¥42,750
					<b>総合計</b>	<b>¥-43,672</b>

## 由木工房での不祥事について

残念なことですが、昨年11月に由木工房で職員の不祥事が発覚しました。この経緯につきましては、12月に法人から出された文書および説明会での説明によりご承知のことと思います。現在、行政(都、市)による調査・指導が行われ、グループホーム開所の申請手続きも準備中で、收拾に向かっていると認識しています。今後の対応としては、二度とこのような事態を発生させないため、管理・監視体制を整えることが重要と考えます。ありの会としても利用者の家族の立場で、日ごろから利用者の心身の状態を観察し、異変を感じた時は迅速に通報することが必要と考えます。このため、近く「障害者虐待防止」をテーマとした学習会の開催を計画しています。詳細につきましては、後日お知らせいたします。多くの皆様の出席をお願いいたします。



2014年12月20日の法人からの説明会

厚生労働省は2014年12月25日、2013年度の障害者に対する虐待事例の調査結果を公表しました。全国の自治体に寄せられた相談や通報は7,123件で、虐待と認定されたのは2,280件、被害者は2,659人でした。障害別(複数回答)では、知的障害が51%、精神障害が36%、身体障害が26%です。

福祉施設の職員による虐待は263件。被害者は455人で、1人が死亡。最も多いのは、父母や兄弟姉妹「養護者」による虐待で、1764件。1811人が被害を受け2人が死亡していた。加害者は1990人で、父母と兄弟姉妹が全体の約6割を占めた。

# かたくりの会との親睦行事

## ◎ 由木工房―農園芸&喫茶の旅行

平成 26 年度由木工房の一泊旅行が行われました。利用者、職員の方総勢 20 名が参加、11 月 17 日（月）

南大沢駅前に集合しバスに乗り千葉県銚子へ向け出発。ポートタワーにておいしい昼食、銚子電鉄犬吠崎マリンパークヘイルカショーを見学、ぬれせんべい駅でせんべい作りを体験後いよいよ本日の宿泊地、かんぼの宿へ、お風呂に入り疲れをとりみんなでおいしい豪華な食事。翌日宿を出発、市原ぞうの国でぞうの演技を見学。昼食後南大沢に向け出発。途中海ほたるにて休憩をとり、夕方無事南大沢に到着。来年もぜひ行きたいな。



## ◎ かたくりの家―ベーカリーレストランの旅行

かたくりの家 B 型ベーカリー・レストランのメンバー 16 名は、11 月 20 日～21 日に、伊豆・箱根一泊旅行に行きました。行き帰りのバスの中では、カラオケやビンゴゲームで盛り上がり、箱根ガラスの森美術館やみかん狩り、ぐらんぱる公園などで、楽しい時間を過ごし、2 日間の旅行を満喫して帰ってきました。



## ◎ かたくりの家―生活介護の旅行

かたくりの家の生活介護で懇親会がありました。当初は 9 月に実施予定でしたが台風で中止になり、今回も職員の移動の後で心配していました。レガールに移られた市川さんの担当だったので市川さんも参加して 12 月 4 日、木曜日にバスで箱根方面に行ってきました。朝から雲空、屋はどしゃ降り、海賊船は窓からの景色は何もみえず、どうなるのか心配しました。メインイベントの一つである、みかん狩りは何とかできました。寒い中でのみかん狩りでしたが、みかんがとても美味しかったです。利用者さんの中には 7 個も食べた人もいました。懇親会に参加して利用者さんと職員さんの普段とは違う一面を見ることができ、とても勉強になりました。楽しい 1 日を過ごすことができました。また来年も楽しみにしています。



## ◎ ぷらさ de かたくり親睦会

12月4日(木)に南大沢生涯学習センター調理室で親睦会をしました。昨年は利用者・保護者と職員さんでシチューを作り楽しみました。そして今年にはぷらさはお菓子工房、クリスマスに向けて忙しくなる時期なので「元気に頑張って!!」という気持ちを込めて、集まった保護者でお野菜中心の料理を作りました。メニューは肉じゃが、野菜炒めあんかけ風、筑前煮、もやしの煮浸し等。由木工房農園芸の小松菜・白菜も使いました。日頃、料理自慢のお母さん達、さっさと調理に取り掛かりました。調理室の隣りでは利用者さん達はライヤーのレッスンをしていました。和気あいあい、賑やかに作り、ミニトマト・ブロッコリーを添えてワンプレートに盛り、全員33名という大勢での会食でした。差し入れのりんごもデザートに付けていました。「美味しい」という声も聞けました。



今回はウエルストーン電子工業株式会社さまをご紹介します。八王子市石川町にある電子機器のメーカーで、出張販売は3年ほど前に、当時の総務の方がかたくりの家の前を通勤していて、パンを作っている事を知って声をかけて下さったのがきっかけで続いているそうです。12月22日の11時30分に職員1名、メンバー2名と一緒にかたくりの家を出発し、出張販売に同伴させて貰い取材をさせて頂きました。15分ほどでウエルストーンさまの工場に到着し、すぐに食堂の入り口に販売テーブルをセットしました。昼休みになると社員の方々が一斉に来られるので10~15分の短期勝負です。

総務の担当者の方にお話を伺いますと、「パンは種類も多く、他にはないパンもあり、味は美味しく好評である。ただ価格がちょっと・・・」との事でした。今後の励みと、努力の目標として行ければと思いました。

メンバーさんもパンの運搬、販売準備、接客、後片付けの作業をほぼ自発的にこなし、入退時には大きな声で社員の方へ「こんにちは」「ありがとうございました」の挨拶をしていました。



# レガーレ開所

レガーレ（LEGARE）とはイタリア語で「人と人とのつながり」を意味します

## 新事業『計画相談センター』が みなみ野にOPEN！

平成26年12月1日より計画相談センターが始動しました。開所に当たり、ありの会と後援会連名でお祝いに観葉植物の鉢植えを送りました。

唐戸責任者によりますと「約60名の方から申し込みがあり、順次面談を行っていますので、しばらくお待ち下さい。」との事です。新しい事業なので、人手不足などもあり軌道に乗るまでには、まだ少し時間がかかるように思いました。



# お知らせ

## ◎ 成人のお祝い

祝！成人

今年は4名の方が成人の日を迎えられました。おめでとうございます。

Kさん、Wさん(ベーカリー)

Eさん(就労移行)

Wさん(かたくりの家)

皆様には商品券とぶらざ. de. かたくりのクッキーを贈りました。

## ◎ お知らせ

今年度よりふれあい運動会にボランティアとしてお手伝いして下さった方にお弁当代として、500円を支給することになりました。

## ◎ 会員の異動

- ・昨年11月30日、由木工房喫茶のNさんが就労のため退会されました。
- ・昨年12月27日、由木工房生活介護のKさんが退会されました。

## ◎ お悔み

かたくりの家、生活介護のAさんのお父さまが昨年12月16日にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

## ◎ ワークグループからの活動報告

前号で募集した「広報ワークグループ」が役員会の承認を受けて活動をスタートさせました。備前、浜津、役員会より内山が参加して3名で活動します。「ありんこ便り」をPCで作成、編集したりインターネット上のホームページ「ありんこホーム」の内容更新作業で役員会に協力して行きます。当面の目標としてはホームページで役員会の議事録を会員が閲覧できるようにパスワードの設定を検討して行きます。(備前)

## かたくりの会と私と

野口洋子

平成10年4月、ぷらさ de かたくりの作業所がオープンする。鈴木タエさんのサツマイモ畑だった土地の確保から資金集め、新メニューの開発までの<sup>いきさつ</sup>経緯は前号で書いたが、もう一つ、新作業所に期待した親たちの思いがあった。一階はすべて作業所、二階は青畳の休憩室で申請したが、なぜこんな広い休憩室が必要なのか都からクレームがついて、これを通す知恵を絞ったことも前号でちらっと触れた。ようするに私たちの願いは、小さくともグループホームのような、また子供を一時的に預かれる場の確保をこの二階に託したのであった。このころのかたくりの会の資金では、本格的なグループホームの建設はまだ無理であった。

さっそく「自立支援プログラム」と称して活動開始。子供たちが、家族、家庭から離れ、家族以外の人達と、夕食、朝食の支度をしたり宿泊の訓練を重ねながら地域の中で自立した生活ができるようにしたい。もちろん将来的にグループホームの立ち上げを視野にいれての取り組みでもあった。男女各部屋の備品のタンスは会で購入し、布団は石坂(誠)さんのお父さんが寄付して下さった。利用者の世話をしてくださるスタッフは、伊藤洋子さん、村井邦子さんらの職員有志、学生ボランティア、数人の地域の方々であった。新しい建物、新しい青畳の部屋でスタートできることに、私たちは本当にわくわくしたのであった。

利用者は、週末に男女各2人くらい。初めて家族を離れての宿泊に戸惑いもあっただろうが、たいして混乱もなく、なかにはボランティアのやさしいお兄さん、お姉さんに会えると楽しみにする子供もいた。もちろん最初からすべてスムーズに運んだわけではない。男子の学生ボランティアさんで料理が苦手な人になると夕食がなかなかできない。みんな腹を空かせて、とうとう外から取り寄せたりとか。親の務めがあったり、車がないので送迎がスムーズにいかなかったりとか細かいいえばあるけど、どうしよう困ったとあわてるようなことはなかった。毎月の定例会では、このプログラムの実施状況や問題点など出し合って改善していった。

この頃、東京都はモデル事業として、グループホーム、ケアホームの建設に乗り出していた。平成11年秋、その1つの足立区のグループホームを見学する。ここでは都営住宅を5カ所ほど借りて、1戸あたり2人が入所していた。狛江市の体験生活寮は、93人の会員が一戸建ての家を借りて、ローテーションで利用していた。世話人も2人いて、都のものより温かいぬもりが感じられた。他にも2、3カ所見学した。

この活動が1年ほど経ったころ、重要な転機が訪れた。1年やって判ったのは、身辺自立している利用者にとっては、この活動は利用しやすいが、息子の千加良のような重度障害のある子供にとっては、経験の乏しい外部の人たちと関わるのは非常に難しいということであった。勢い利用者は限られてくるが、活動を継続するには資金的にもかたくりの会の事業としなければ難しい。そこで、この活動を正式にかたくりの会の事業として継続するか、それとも定期的に利用している5、6人の親たちが資金を出し合いアパートなど借りて独立してやるか、どっちかにしないと今後立ち行かないというものであった。当時の宗岡所長は、かたくりの会の事業としてやるには、職員の勤務体制(宿泊手当、翌日のPM代休の問題など)をきちっとすること。会の総会でこの承認を得ることが提案された。この活動に補助金がつくなら問題ないが、グループホーム、ケアホームとして申請認可されたものではないので補助金を当てにすることはできなかった。それで会の事業にもならず、資金的に独立してやるまでもいわず、必要とする有志の方々が細々と続けられたのであった。

そのころ利用者は、学童も入れて45人くらいだから、ちゃんとしたグループホームの建設となるとまだまだ難しかった。だが、利用者は年を取る。それ以上に親は年取る。いずれグループホームの建設は喫緊の課題となろう。これまでの経験から、そのためにはやはりまずは土地の確保かな、私は心の内に深く期するものがあつた。

そのころ、降って湧いた話。かたくりの家の畑のど真ん中に道路を通すというのだ。なに、それと笑っていたのが、都から通知がきた。知らないのはかたくりばかりだったのか、なんとよほど前からの計画であつたらしく、いまさら反対してももうどうしようもないものだった。これまで車の走る道路のないのどかな環境のなかで作業してきたのに、トンネルを3つもぶち抜いた本格的な道路が、かたくりの畑のど真ん中、ログハウスの前を通るといふ。反対できないならせめてこちらの使い

勝手のよいものにしたいと、要望書を提出することにした。要望の内容は、利用者の畑までの安全な往来のためにトンネルか陸橋をつくることであった。都は、このトンネルまたは陸橋をつくることは可能だが、その管理はかたくりの会でなければならないという。ところがこうしたものの維持管理というのは想像以上に大変なことが分って、結局これは無しにした。畑の中にトイレを設置する件とか、「この先に福祉施設あり」の看板の設置は認められて、現在に継続されている。いまのログハウスの裏の山を上って、トンネルの上を通して畑に行く道もつくってもらった。ここでシイタケ作りをしていたし、以前はよく利用していた。街路樹は季節を感じさせる桜を要望。かたくりから野猿街道までは桜になった。木がもっと大きくなったら見事な桜のトンネルになるかな。そんなところにもかたくりの意思が働いていたなんて、いま書いておかなければ、だれも知らないことになってしまうから…。こうして、ほぼ1年にわたって断続的にかたくりの家で都と話し合いが続けられ、平成12年に、現在の都道(155号線)が開通したのであった。

都道の件であーでもないこーでもないとやっていた、その最中、またしても持ち上がった金の話。ログハウスを施工した奥森ハウスから連絡が入る。ログハウスは10年ごとに、外壁を塗装(防腐剤)するメンテナンスが必要というのだ。もうそんなになるかと驚いたが、業者に見積ってもらると、これがびっくりするほど高額で、会にとって右から左とすぐに回せる額ではなかった。そこで考えついたか、あるいはそれしかないとも言えるか、例のかたくり方式であった。ボランティアで関わっていた首都大を中心とした大学生や養護学校の先生方、かたくりの父親に呼びかけた。前日に富澤さん(親、庭師)と塗料や刷毛を買いに走りまわる。

作業当日の日曜日、朝早くから20人もの人たちが集まってくれた。素人でもこれだけの人数がいるとたいしたものである。冗談をいいながらも結構はかどって一日で終了した。夕方、母親たちが準備したささやかな宴会が始まり、夜更けまで賑やかな会話が続いた。(平成11年7月)



当時の利用者、家族、職員での旅行